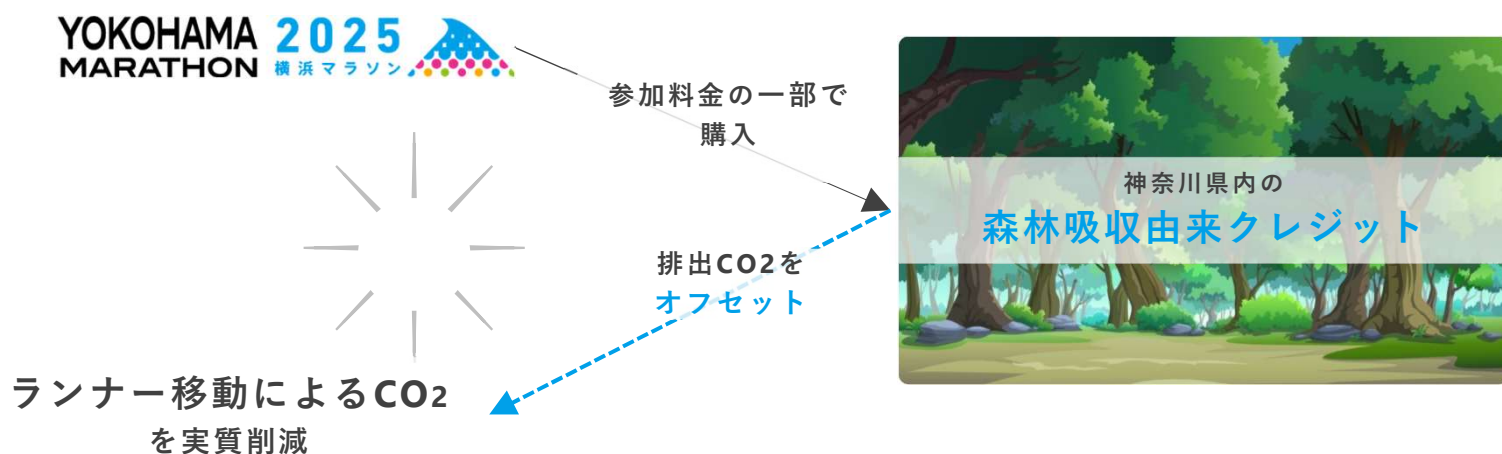


横浜マラソンは、参加料金の一部を環境協力金として活用します。

- 1 参加ランナーの大会参加のため横浜へ移動する際に係るCO2排出量を算出
- 2 算出されたCO2排出相当量のカーボンオフセットを実施
- 3 大会開催における環境負荷の軽減を図ります。

環境協力金の算出について

2025大会の参加ランナー人数が決まり次第、ランナー移動によるCO2排出量を算出し、環境協力金を確定いたします。
※100円程度を想定。



カーボン・オフセットとは

日常生活や経済活動において避けることができないCO2等の温室効果ガスを他の場所での削減・吸収活動で埋め合わせするという考え方です。



ちなみに…
2024大会の排出量は??ランナー移動によるCO₂排出量約**263t** -CO₂(例) $263\text{t} \times 9,800\text{円}_{※1} = \text{約}2,580,000\text{円}$
 $2,580,000\text{円} \div 26,000\text{人}_{※2} = \text{約}99\text{円/人}$ ※1 1tあたりのCO₂を削減・吸収するのに掛かる費用

※2 2024年度の参加者数

内訳

排出源	CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)
鉄道	73,499
航空機	186,711
バス	2,435
合計	262,645

263 t -CO₂ってどれくらい？

林野庁によると、36～40年生のスギの木1本が1年で吸収できるCO₂はたった8.8kg-CO₂です。ランナーの移動で排出された263t-CO₂をスギの木に吸収してもらうには、約30万本の木が必要になります。また、1g-CO₂の体積は、500mlのペットボトル1本分に相当します。263t-CO₂は、ペットボトル約2億6千3百万本分相当です。

263t-CO₂の体積

ペットボトル

2億6千3百万本分263t-CO₂を吸収するには

杉の木

30万本

が必要